# 第８回定例委員会会議録

教　育　長　）　開会宣言

教　育　長　）　会議成立の宣言

教　育　長　）　会議録署名委員の指名（極楽地委員）

教　育　長　）　それでは、審議に入ります。

はじめに、日程第１、専決報告第１８号「芦屋市立学校園医の委嘱について」を議題とします。

提案説明を求めます。

学校教育担当部長）　〈議案資料に基づき概略説明〉

教　育　長　）　説明が終わりました。質疑はございませんか。

森 川 委 員 ）　確認ですが、医師会から重信先生を推薦いただいたものですか。

学校教育担当部長）　はい。退任の申し出があって、すぐに医師会に推薦いただいたところ、推薦がありました。

森 川 委 員 ）　そういうことですね。分かりました、ありがとうございます。

教　育　長　）　他に質疑はございませんか。

無いようですので、これをもって質疑を打ち切ります。

これより採決いたします。

本案は、原案どおり承認することに御異議ございませんか。

〈異議なしの声〉

御異議なしと認めます。

よって本案は原案のとおり承認されました。

〈専決報告第１８号採決。結果、承認（出席委員全員賛成）〉

教　育　長　）　次に、日程第２、報告第４号「令和６年度全国学力学習状況調査の報告について」を議題とします。

提案説明を求めます。

学校教育課長）　〈議案資料に基づき概略説明〉

教　育　長　）　説明が終わりました。質疑はございませんか。

河 盛 委 員 ）　今年度の中学校の英語はなかったのですが、これは昨年度、スピーキングの不具合の影響か何かですか。

学校教育課長）　いえ、そういうわけではなくて、英語については３年に１回となります。来年度、小学校も、理科も入っていたり、国語・算数・数学は必ずあるのですが、英語や理科については何年かに１回になっているものです。

河 盛 委 員 ）　あと、質問の２１番ぐらいから３０番ぐらいまで、ＩＣＴの話がずっと続いているのですが、大体、全国に比べると低めな回答ですが、こちらについてはどう思われていますか。

学校教育課長）　実際、全国平均と比べるとこのような状況になっているのですが、やはり本市で進めているのが有効的な利活用も考えておりますので、何が適しているのか、何がどうなのかも必要かなと思っています。ですので、全ての時間に必ずしないといけないわけではありませんし、また、そうである教科、ＩＣＴを使用する教科と使用しても、あまり効果がない教科を酌み取って各学校で取り組んでいることですので、こちらに関して、全国平均よりは下回っているものの、そこに大きく課題があるとは考えていないところです。

極 楽 地 委 員 ）　小学校の英語で、全国平均から２０ポイントぐらい低いというもの、これは理由として、何が考えられるかは分析されて

いるのでしょうか。

学校教育課長）　こちらの結果が出た際に、指導主事で分析等も行っているのですが、一定、今、考えられていることが、これまでは英語は教科ではなくて、国語・算数などは、これまで教科書を使いながら教えるのですが、別に教科書を使わなくても教えられる、独自でいろいろな経験からこういう教材などを使っていることが多かったのですが、英語が急に入ってきて、どうしても教科書を教えるほうに走ってしまっている。実際、私自身も英語が苦手で、どうしてもこの項目を教えなければならないということに固まってしまって、固執した授業になってしまっている。

逆に、中学校は、かなり英語に関していくと、大切だとか楽しいところでいくと高いです。それは、先生方がこれまでの経験で授業単元をいろいろ組み替えながらしているところがあるので、今後、考えていくのは、小学校の先生たちが中学校の先生たちに教えてもらう、小中の連携でも必要ですし、もう１点、研究チームで、どうすれば子どもたちが楽しめるような、好きだなと思える授業になるのかを考えていかないといけないのかなと思っているところです。

極楽地委員）　結構、英語は専門性が高く、小学校の先生方が全部を教えないといけないのは大変だなと思うのですが、ＡＬＴの先生方の配置はどういう状況だったのでしょうか。

学校教育課長）　今、現状は、小学校は週２時間の授業のうち、１時間は必ずＡＬＴが入る状況になっています。

専門性で言いますと、昨年度までは担任の先生が教えたりという学校も多かったのですが、本年度に関しては全学校、専科

教員が配置されているところです。

極楽地委員）　英語の専科。

学校教育課長）　専門の免許を持っているか、経験豊富な先生が教科担任として。

極楽地委員）　週２時間のうちの１時間を持つ。

学校教育課長）　週２時間持ってくれて、担任とは違う先生が、担任の先生もなっている場合も。担任の先生以外が２時間教えるのですが、担任は違うところで。専門の先生が２時間教えて、そのうちの１時間はＡＬＴが２人で入る。

極楽地委員）　専科の先生とＡＬＴの先生が教えてくださっているけれども、なかなか好きになれない。

学校教育課長）　この調査自体が４月なので、その状況は本年度からで。実は昨年度の状況でいくと、昨年度は結局、多くの学校は担任の先生が教えて、何校かは英語の専科の方がいらっしゃっているのですが、今年度からは完全に。ＡＬＴはもともとそのような状況だったのですが、しているというところです。

何度も言うように、どうしても教科書を使って教える、教科書を教えるという言い方がいいですかね。そういうところに走ってしまっているところは見えてくるかなと思っております。

極楽地委員）　今、お話を聞いていて、対象が小学校６年生と中学校３年生で、私立受験だったり、高校受験があるので、どうしても教科書を教えることも必要とされているので、すごくバランスが難しいだろうなとは思います。

今年からの取組で、来年度のポイントが上がることを期待しつつ、その辺、芦屋ならではの特性というか、小学校６年生は

特にそうですが、３割が私立受験をされますので、その辺りも何かいい教え方を見つけていただけたらありがたい、よろしくお願いします。

学校教育課長）　中学校の専門性の高い先生方と連携を取りながらすることも１点ですし、研究チームを立ち上げましょうということで、これは外国語担当者も課題として認識していただいた、校長先生も認識していただいたところなので、今からその辺については取り組んでいかないといけないと思っています。

教　育　長　）　英語でいくと、モンテベロに行った２人が報告をしていて、ちょっと質問をしたのですが、向こうへ行ってどうだったか。日本のそれまでの義務教育で、高１の子が行っていたので、いわゆる小学校６年間と中学校３年間に、何か提案あるかと聞いてみました。

役に立ったことは歴史の学習と能などの文化、日本の和文化は向こうでプレゼンをするときにすごく共感を得て、物すごく興味を持ってらした。それはずっと引き続き、伝統的なところは必要なのだなと。

英語にも提案してくれていて、ネイティブの人とできるだけ小さいときから触れていたほうがいいと思いましたということで。自分は自学自習で割と自信があって行ったほうですが、向こうでは全然駄目だった。初め、聞くことがということもあって。そういう意味では、日常的なところで触れていたほうがいいですねというところは、ちょっと聞かせてもらったので。

参考としては、そういう時間をどう取るか、授業時間もそうですが。そうすると、少なくとも小学校のときに嫌いになって、

後から好きになるのは難しいので。何でもそうですが、小学校段階から好きにさせることはすごくポイントかなと思って。ここはあまりスキルを問うていないので、本当に好きかどうかというところで「いいえ」と答えているので、半分近い子が。それは、すごいネイティブとフレンドリーに、授業もそうだし、授業以外の時間でうまく関われると少し、伝わったということが「好き」につながって、将来的には使っていこうという子に育つのかなという気はしました。

急がば回れというか、すぐ、今日やって、あした好きになるものでもないので、地道に日常化していくようなものがいいのでしょうね。

学校教育課長）　授業の中で、本当に必要性というか、子どもたちがなぜこの英語をするのかもあるのかな。逆に、よくあるのが、京都に旅行へ行って、海外の人とおしゃべりするみたいなことについては子どもたち。

教　育　長　）　インタビューとか。

学校教育課長）　インタビューで。

すごく好きでやるのですが、部屋の中で、閉じ込めた中で、ただ言うだけということだと、なかなか好きにならないのかなというところで。

何の授業でもそうですが、なぜこれをするのかという必然性がなければ、どうしても取組などの度合いも違ってくると思うので、そういう単元構成だったりという工夫は、いろいろ今後、専門性が高まると生きてくるのかなと思っています。なかなか、スタートしたばかりというところもあって、ちょっと課題かな

と思っています。

教　育　長　）　去年の学力調査だったかの分析で、学んだことをアウトプットすることと「学校が楽しい」か「授業が楽しい」とがリンクしていたので。そういう意味では、英語でのアウトプットがうまくネイティブに絡ませると、向こうのものを聞くよりもこっちのほうが、「相手に伝わる」ことが、小学校段階では「楽しい」と言うのかもしれないなと思いながら。

研究チームが立ち上がっているので、ちょっとそういうエッセンスを、と思います。

学校教育課長）　５ページ、６ページのクロス分析で、小学校「英語が好きだ」という項目に関していくと、「単元の終末に、自分の考えをまとめる活動を取り入れる」ことをすれば、「英語が好き」という子たちの割合が増えるという結果も出ていますので、これはどの教科でも言えることではあるのですが、英語でも同じようなことをやることは、教育長がおっしゃる１つかなと思っています。

教　育　長　）　ＯＮＥ　ＳＴＥＰｐｅｒｓの英語版みたいな、ではないですかね。

学校教育課長）　ＯＮＥ　ＳＴＥＰｐｅｒｓの英語版ですね。英語が、どうしてもの専科教育になってしまったことも１つ。

教　育　長　）　集めやすくはなりましたね。

学校教育課長）　集めやすくはなっています。本当にその方々と、共有しやすいことはあるので。

教　育　長　）　だから、今まで担任がしていたときは、毎年、英語の担当が変わっていたので、専科制になると、割と経年で、異動して

も英語をやるので、そういう意味では系統立てた形になる可能性が高い。

学校教育課長）　なったかなと思いますし、経験も本当になるのかなと、担当することによってということもあるのかなとは思います。

教　育　長　）　分かりました。

森 川 委 員 ）　教えていただきたいですが、調査結果の１ページ、２「調査の概要」（２）「調査の対象学年及び実施状況」があって、「在籍数」と「受検者数」が書いてあって、在籍者数に対して受検者数が、小学校も中学校も低くなっているのですが、これは不登校の方などが受けられていないとか、そういうことが要因でしょうか。

学校教育課長）　そうですね。不登校、欠席も、実際にこの日、ちょうど欠席したという場合もありますし、受ける・受けないという選択で、特別支援学級の児童が、保護者との話の中で受けていない場合もあります。１人１人の把握はできていないですが、いろいろ。

森 川 委 員 ）　不登校の方、学校に来られないような方は、このテストを受ける機会は、学校に来られない以上ないことになるのでしょうか。それとも、のびのび学級などでも受けられるとか、そういったことになるのでしょうか。

学校教育課長）　のびのび学級で受けられるかどうかはあれですが、持ち帰って受けることは可能で。ただ、日にちが過ぎてしまうと、この調査の対象にはならない場合があります。細かい日程が私のほうで把握できていないですが。受けたい場合には、採点までは、たしかいけるかな。遅れてするのはいけると思います。

教　育　長　）　自己採点ですか。

学校教育課長）　先生がする場合もありますし。

森 川 委 員 ）　受ける機会は保証されている、そういう理解でよろしいですかね。

学校教育課長）　はい。

森 川 委 員 ）　あと、いろいろと分析、クロス集計などをされていると思うのですが、ここに挙げられているのは一部のようですね。

学校教育課長）　そうです。

森 川 委 員 ）　多分、ほかにもいっぱいされているのかなと思います。文科省などの分析結果だと、児童生徒の生活習慣等に関する質問についてもクロス集計、いろいろされていたものを拝見したので。今回、特にそれがなかったので。その辺は、特に全国的な調査結果と比較して、それほど芦屋市が特に変わっている点がないとか、そういう理由で、特にここには載っていないということでしょうか。

学校教育課長）　今回、昨年度からの継続で、どうしても授業改善もひっくるめての調査で、今回、クロス集計しているのが、そういった部分。特に私たちが課題にしているのは、自己肯定感だったり、「学校が楽しい」だったりを特に着目しているところだったので、今回はその部分を載せさせていただいていることです。

森 川 委 員 ）　そういうことですね、分かりました。ありがとうございます。

三 宅 委 員 ）　基本的なことですが、この分析は芦屋市教育委員会がしたということですか、どこがしているのですか。

学校教育課長）　学校教育課で行っています。

三 宅 委 員 ）　そうなんですね、分かりました。

設問６のＣの部分、「先生は自分のよいところを認めてくれていると思う」、この「先生」が関わってくるところが、本当に極端に全国平均よりも低くて。これをどう学校としては捉えていて、英語など勉強に関しては取組を積極的になさると思いますが、ここに関しては、どのように取り組んでいこうとされているのかなと思ったんです。

このＰＥＡＣＥプロジェクトに載っていたのですが、難しいとは思いますが。ただ、「先生は間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」のも低くなっていますし、先生方皆さんも、この結果は知っていらっしゃることですか。

学校教育課長）　そうですね、市としての平均と、あとは各学校の平均は先生方、調べることは可能です。

ここ、質問が難しいところではあるのですが、先生は教えてくれないが、もしかしたら、ここの捉え方もそうですが、友達という場合もあるかなと。ただ、理解しないまま終わっていることは問題で。そういうことに関しては、この質問では読み取れないところはあります。

ただ、先生たちに知ってもらいたいのは、「教えて」と言う子に対して、どう答える、親身になってするのかという体制は必要かなと思いますので、いわゆる教室に入れる子もそうですし、教室に入れない子で聞きたい子に対して、どういう取組ができるのか。今だったら校内サポートルームもありますし、のびのび学級もありますので、そういったところには、一定、結

果については重く受け止めて、取組を。

三 宅 委 員 ）　ショックですよね、先生の立場としたら。

学校教育課長）　そうですね。

三 宅 委 員 ）　一生懸命、先生も子どもたちのことを思って接しているつもりでも、結果がこう出てくる。だから、いい結果になるように、先生方もこれを知って、どうしていくかを話し合ったりされるほうがいいのかなと思いました。

学校教育課長）　そうですね。各学校で授業推進部を中心に、この結果を分析して。今回、市の分析については各学校に送りましたし、校長会でも話しさせていただいていますので、また、それを基に各学校でどういう取組をするかということは、されるかなと思っております。

三 宅 委 員 ）　そうですね。

教　育　長 ）　市は市で分析したものをホームページに上げます、学校も学校便りで、たしか校内で分析したものを上げていますね。

三 宅 委 員 ）　そうなんですね。

極 楽 地 委 員 ）　お手紙などで。

教　育　長 ）　お手紙でもそうです。大体、２学期の学校運営協議会では、まず校内も見ていただきますが、学力調査の分析も、校内ではこんな分析をしましたと、委員さんにはお示しさせてもらっています。その繰り返しですが。

三 宅 委 員 ）　先生方も必ず見ている感じですか。

教　育　長 ）　教員ももちろん。そこで、さっき尾上課長からお話があったとおり、さっきの三宅委員の御質問でいくと、「先生は授業やテストで理解していないところを分かるまで教えてくれてい

るか」を、自分のクラスを見ていて、子どもたちがちゃんと定着しているかを子ども同士でいけているなら、自分がここの数値は低くてもいいと見る先生もいると思います、完結していれば。

要は、把握しているかどうかが、結構「個別最適」の「個別」のところで、すごく大事なところで、全体だけぼんやり見ていて、個別をちゃんと見ていなかったら、ここの数値は低くなると思います。その見方も先生は大事かなと思います。

三 宅 委 員 ）　今日、精中を見学させてもらったのですが、グループワークをされているところは、子どもたち誰も寝てなくて、積極的にされていて。そういうところで先生が見て回っていらしたが、あのときの先生の見て回ることは、子どもたち１人１人に目を配る、そこが大事ですね。

教　育　長　）　ですね。だから、その時間までの把握が大事です。今日は誰と誰が特にということと、あと、いつも気にしておかないといけない子とか。

三 宅 委 員 ）　ことという意味ですね。

教　育　長　）　どう関わるかというペアを見ておかないといけないですね。

三 宅 委 員 ）　そうですね、そのペアもそうですね。だから、これが例えば友達から教わっていて分かった子は、これには低くなる。

教　育　長　）　それはそれでなると思います。

三 宅 委 員 ）　そういうこともあるということですね。でも、今日、すごくいい雰囲気で子どもたちが、学習に取り組んでいるところを見ることができ、よかったです。

学校教育課長）　先ほど、森川委員がおっしゃられた不登校のもので、のび

のび学級では受検を一切していないそうです。

森 川 委 員 ）　そうですか。

学校教育課長）　のびのび学級の中ではしておらず、ただ、違う場所で個人でやって、それを持っていく場合はあり得るのですが。

森 川 委 員 ）　分かりました。

極 楽 地 委 員 ）　意見ですが。今のお話を聞いていまして、分析を各芦屋市の中でもしていただくことで、学校からもしている。だったら校区ごとといいますか、エリアの特徴は把握されているという認識でよろしいですか。この学校は、こういう特徴があるということを。

学校教育課長）　こちらとしましては、結果の分析、把握しています。ただ、なかなか各学校の状況になるので、示されない。

極 楽 地 委 員 ）　現場、保護者からの意見としては、エリアだったり、学校間で差があるという意見は常日頃。主観も入っているかもしれませんが、それはちょくちょく聞く話で。学校ごとの試験のレベルが違ったりとか。

教　育　長　）　テストですか、定期テスト。

極 楽 地 委 員 ）　定期テスト。それによって、ちょっと話がそれますが、中学校であると、評価・評定が学校ごとに差が出てくると受験に対して、内申という言い方は嫌ですが、内申を気にされている方も多いので、それを見直しはしっかり、市内で統一されているのかという問合せなりもいただくんです。

それは、差があるとは言えないので、ないということで、統一してやっているということはお伝えしているのですが、なかなかその辺の不信がないようにお願いしたいです。

学校教育担当部長）　私は中学校籍で、その辺はいろいろ聞くところではあります。

一律に、県下で基準がありますので、それにのっとってつけている部分はあるので、保護者が心配されるのは、そういうところを知らない部分があるので、余計に心配になるのかなとは思ったりします。

教　育　長　）　進路の評定で評定の研修会をしていますので、それは三中学校だけで、三中学校が集まって、市教委も入って、評定の研修がまずあります。それで、まず三中学校、足並みそろいます。かつ進路担当者会があります。神戸の学区と一緒に進路担当者会もあります。

極楽地委員）　芦屋市はしっかりと評定されているこその正しい評定ですが、受験では他市の学校と一緒になることが多いため、他市との違いがあるのではないか、とのお話は聞きます。市町間で内申に差があり、希望する学校を受けられないというようなネガティブなお話につながってくるので、なかなか難しいというか。

学校教育課長）　そうですね。

極楽地委員）　子どもの希望する高校に行かせてあげたいという保護者の気持ちも分かりますし、内申のみが理由でなくとも、志望校を受けられないとなることが、ネガティブに広まる場合もあるので。

教　育　長　）　今、全国的な国の流れから行くと、大学入試が少しずつ見直されつつあって、高校も広島県などは「自己表現」などを入れ出しているんです。そうやって、不登校傾向の子たちに対してもチャンスがちゃんと、書いてチャンスが与えられるか、話

してチャンスが与えられるかですが、それまでの３年間、どんなふうに自分が向き合ってきたのかという表現を評定していこうということは、流れとしては出てきているんですね、だんだんと。

さっきのアウトプットではないですが、割とそこを大事にして、入試内容が変わってくると、授業もアウトプットを大事にするようになるということで。入試が変われば授業も変わるという理屈で、少しずつ国が先頭に立って揺さぶってはくれているといいんですが。

極楽地委員）　県の入試の方式が変われば一番ベストでしょうけど。今、特色選抜とか、いろいろ推薦の方式が変わっているので。

教育長）　だから、テストの対策などが変わってこないと、これから求められる人材をどう育てるか、どういう授業をするかにつながってくるので。だから、暗記型では、ほとんどＡＩに聞けば分かる時代が来ます。もう来ていますが、というところですね。

極楽地委員）　昨年度、お伝えしたのですが、自己肯定感が低いイコール悪いということは、私はないと思っていて。というのは、やっぱり意識が高いからこそ、目標点に達しようとする、それが達しないところで自己肯定感が低くなるという傾向、芦屋市はそれがあるのではないかとずっと思っています。

それは言ったら、保護者、各家庭の子どもに対する意識の高さが、私は関係していると思っているので。そこは、各家庭の保護者の方々にも知っていただきたいところです。

学校だよりとかで公開されるものがあるのであれば、子どもを褒めてあげること、自己肯定感が低いことは、ネガティブで

すが、そこは芦屋の特徴もお伝えいただきたいと思っていまして。お便りを見ていただければいいですが。発信することで安心することは大事だと思いますので。

子どもたちが自己肯定感、自己有用感を高めてもらえるようになればいいなと思います。

三宅委員）　私も極楽地委員の、それはすごく感じていて。今日も中学校に行って、野村教育長にもお話ししたのですが、「ボランティアをしましょう」みたいな張り出しがあったのですが、先生方がボランティアをうながしていたとすれば、ボランティアができてないと駄目じゃないかと思ってしまってはいけないと私は感じています。芦屋市の皆さんは、意識を高く設定し、いろいろな活動をされている方も周りにいらっしゃるので、そこじゃないと駄目と、すごく意識が高くなってしまって、自己肯定感が低くなっているのではないかと私も感じています。

ただ、例えば、うちぶん（打出教育文化センター）などに行くと、畳の部屋でお母さんがお子さんを連れてくつろいでいらっしゃるところに、あそこで勉強している中学生、高校生の方がいらして、お母さんと子どもと一緒にお話ししたり、子どもと遊んであげて、そこでちょっと会話が生まれたりすることでもいいのかなと思います。

また例えば、駅の切符売り場でお年寄りの方が切符を買うのを悩んでいたら、「大丈夫ですか、ここはこうですよ」と言ってあげることでもいいことなんだよと、ふだんの生活の中でそういうことをすることが、自分は人の役に小さなことでも立てていることが、幸せにつながっていくのではないかと思います。

大きな目標ばかりをいいこととせずに、小さな身近なことも周りの大人も含めて、みんながそういうことをしているところを伝えていけば、それもすごいねという声掛けなども、自己肯定感を高めることにつながるのかなと、極楽地委員の話を聞いて、私は感じました。

教　育　長　）　自己肯定感とか他者受容感など、ああいうものも、自信というものは発達段階によっても、小学校１年生ぐらいだったら、僕、できる、できるとすごく肯定感が高いですが、だんだん周りが見えてくると、みんなと比べ出すので下がってくる、成長とともにということもあります。逆に、比べないで自分はいいところがあると思えるような子にしていかないといけないですね。どうしても日本人、比べてしまいますので。間違えたくないしというところで。

だから、自分などもすごく肯定感、今、下がっているんです。全国を見ていて。頑張ります。

極楽地委員）　あと、全国平均、点数は高いですが、ついていけていない子どもたちがいることだけは、しっかりとフォローもしないといけない。そういった御意見もいただいたりもしています。

さっきの話ですが、レベルが高いので、高過ぎてついていけなくて、授業にもついていけないという声があるのも事実なので。先生方、本当に、どっちか極端だとすごく難しいですが、そこもいい方法は、研究しかないなとは思います。

学校教育課長）　今、ＯＮＥ　ＳＴＥＰｐｅｒｓが研究を重ねている個別最適な学び、個人で個々に応じてという取組が１つあるかな。それぞれの選ぶ教材も、場所も、それを自分たちで選んで学ぶこ

とが、それにつながるのかなと。

一斉授業をすると、どうしても同じことを同じように、一律で教えないといけないところ、そういう時間も必要ですが、そうでない時間も持ちながら、自分たちのそれぞれの必要としている学びについていける形でやっていく必要性はあるのかなと思っています。

極楽地委員）　一歩一歩、進むことを願っています。

学校教育課長）　はい。

河盛委員）　平日に、１日当たり３時間以上勉強していますかとか、土日に１日当たり４時間以上勉強していますかという質問に対する回答が、芦屋市は全国の３倍以上です。多分、むちゃくちゃやらされているから、ストレスがたまっているのかと思います。

教育長）　そうですね、そこですね。

河盛委員）　これがかなり影響していて、先ほどの勉強、分からないところに学校の先生に教えてくれることが、多分、塾の先生と比べている可能性がありますね。

教育長）　恐らく。

河盛委員）　それと、質問６３番や６４番で、特に算数・数学で中学生、将来役に立つかとか、やっていることが。ふだん役に立つかとか、そういったことがちょっと低いわけです、全国に比べて。これは、我々が中学生のときもそんなことを言うやつがいて、こんなことやって何か意味があるのかとか、みんな考えると思うんですが。

最近、平城京で出土した木棺に九九の表がずっと書いてあった。奈良時代ですら、お役人が算数の九九をしていたと、あ

んちょこを見ながら頑張ってやっていたと、そういうことなどをうまいこと使って、この頃、中学校の教科書の後ろのほうにいろいろコラムなどいっぱい書いてありますが、そういうことも利用しながら、やらされていると、こんなこと意味があるのかと思ってしまうのですが、十分、これやると役に立ちますよと発進していくような授業をしていただきたいなと思います。

教　育　長　）　まさに教科横断的な。

学校教育課長）　そうですね。それこそ探究、だからこそ、自分は数学、これをしないといけないという必要性を感じたりするので。それは、どの教科も本当にそうだなと思っています。

教　育　長　）　木簡の九九ってどんな計算をしていたのでしょうね、何を計算していたのでしょうか。

河 盛 委 員 ）　やっぱり面積とか。

教　育　長　）　面積、なるほど。

河 盛 委 員 ）　あるいは体積とか重さとか、そういうものもあるかもしれない。収穫のときに、昔、升の大きさとか、インチキするやつがいたりして。税金を取るために。

教　育　長　）　だんだん、それがエピソード記憶になっていくんですね。

河 盛 委 員 ）　これぐらい小さくすると、ちょっと小さくなったら、ごまかしが利くとかあります。

教　育　長　）　おもしろい、実際にやってみるとか、そのインチキをね。

河 盛 委 員 ）　すごい学問を進めますから。

教　育　長　）　生きる力。

極 楽 地 委 員 ）　生きる力、本当ですね。

教　育　長　）　ホームページへの掲載はこれからですか。

学校教育課長）　来週には掲載予定です。

教　育　長　）　まず、市教委で市のホームページに上げまして、その後、多分学校がそれぞれ学校便りで上げていきますので、また御確認いただいたらと思います。

他に質疑はございませんか。

無いようですので、これをもって質疑を打ち切ります。

それでは、報告第４号「令和６年度全国学力学習状況調査の報告について」の報告を受けたものといたします。

教　育　長　）　閉会宣言